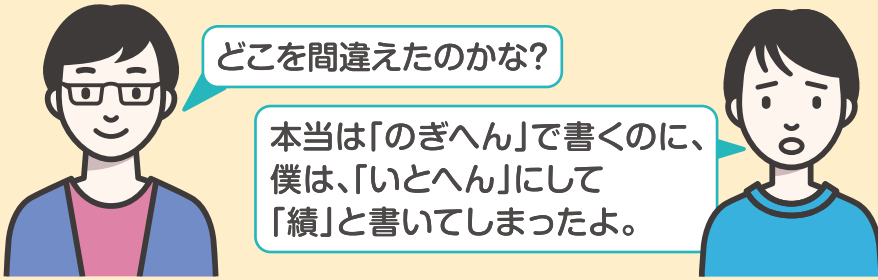
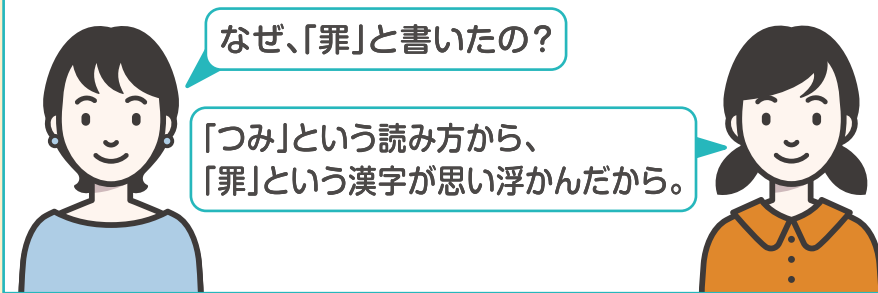


# 3 お子さんの学習を家庭で支援する取組例

お子さんがテストやドリルで漢字を書き間違えたときは、どこを間違えたのかを自分で確かめられるように、声を掛けてみましょう。



誤答でも、自分なりの理由があって解答していることがあります。同じような間違いを繰り返さないようにするために、なぜ、そのように答えたのかを説明させ、お子さんの考え方を知ることが大切です。



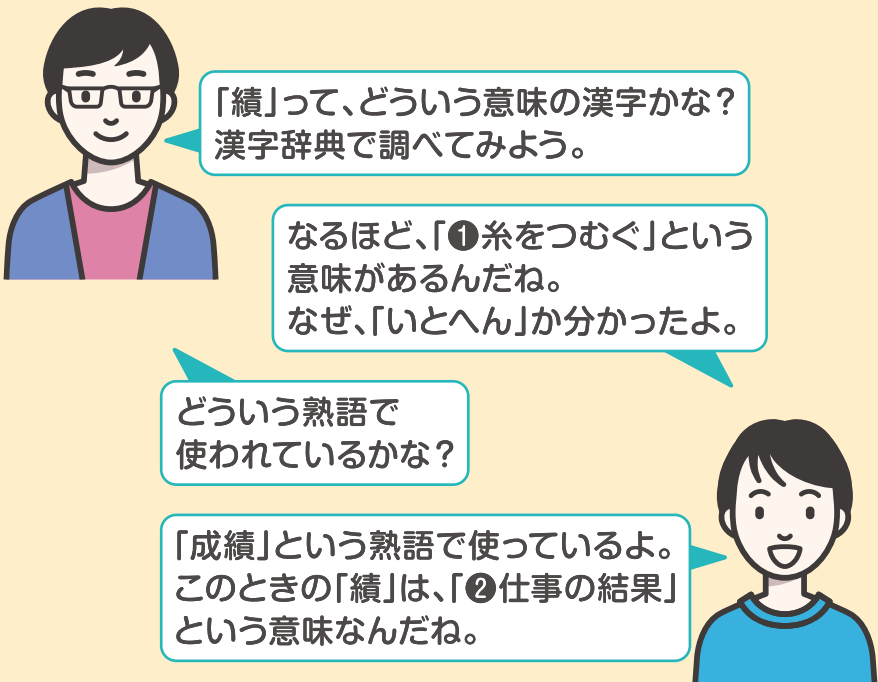
「令和3年度全国学力・学習状況調査」  
小学校国語 3 三(1)の問題

丸山さんは、習っている漢字がひらがなになっていた  
——部を漢字に書き直すことにしました。  
次の——部を漢字で正しいに書きましよう。  
また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に  
置かれず、すみの方につき重ねられています。

正答………積み  
誤答の例……罪、績

平均正答率	
東京都	57.0%
全国	54.4%

似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめたり、漢字の部首の意味も考えながら覚えたりできるように、声を掛けてみましょう。



漢字辞典の記載例

【績】  
糸11画 17年 ㊦セキ

筆順 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

成り立ち 糸(いと)と、音を表す貴(セキ)とを合わせた字。糸(いと)と、音を表す貴(セキ)とを合わせた字。糸(いと)と、音を表す貴(セキ)とを合わせた字。

意味 ①糸をつむぐ。例 紡績。②仕事の結果。てがら。例 成績。

【積】  
禾11画 16年 ㊦セキ

筆順 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾

成り立ち 禾(こ)と、音を表す貴(セキ)とを合わせた字。禾(こ)と、音を表す貴(セキ)とを合わせた字。禾(こ)と、音を表す貴(セキ)とを合わせた字。

意味 ①つむ。つむもる。つみ重ねる。例 集積、積雪、積り。②かさ。例 面積、かけ算の答え。

【積雪】セキ雪がつもること。ふり積もった雪。



「積」には、穀物を集めて積み重ねるという意味がある。だから、穀物を表す「のぎへん」なんだね。「雪が積もる」という意味の「積雪」という熟語がある。この問題では、「のぎへん」の「積」を書くことがよいのだと分かったよ。



漢字辞典の使い方は、小学校第4学年の教科書でも扱っていますので、使い方が分からない場合は、教科書で確認するとよいでしょう。学習の質を高めるためにも、辞書や辞典を利用して調べる習慣を身に付けられるとよいですね。

テストやドリルで間違えたときは、間違えた漢字を学習し直すことで、学習内容を定着できるように声を掛けてみましょう。



間違えた漢字は、正しく書けるように練習しておこう。調べて分かったこともメモしておくといいね。

ノートにまとめたら、漢字の意味や使い方をよく理解できたよ。



「積」の例	
禾→穀物の意味 青→セキという音。集めるという意味 ◎「積み重ねる」という意味の漢字	<p>積 (つ) セキ (も) 積 (も) 積 (も) 積 (も)</p> <p>積 (も) 積 (も) 積 (も) 積 (も) 積 (も)</p>
糸→糸の意味 つなぐという音 ◎「糸をつむぐ」という意味の漢字	<p>績 (つ) セキ (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も)</p> <p>績 (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も)</p>
イ→糸の意味 つなぐという音 ◎「糸をつむぐ」という意味の漢字	<p>績 (つ) セキ (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も)</p> <p>績 (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も)</p>
イ→糸の意味 つなぐという音 ◎「糸をつむぐ」という意味の漢字	<p>績 (つ) セキ (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も)</p> <p>績 (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も) 績 (も)</p>

ポイント  
その漢字の意味を考えて、文の意味が通じるかを確かめることが大切!

正しい答え → 積 (も) 積み重ねるという意味

× 罪  
つみ重ねられています。  
→ これだと、悪い行いを重ねるという意味になり、文の意味がおかしくなる。

同じような間違いを繰り返さないようにするための教訓を自分なりの言葉でまとめ、書き留めておくことも、学習の質を高めることにつながります。

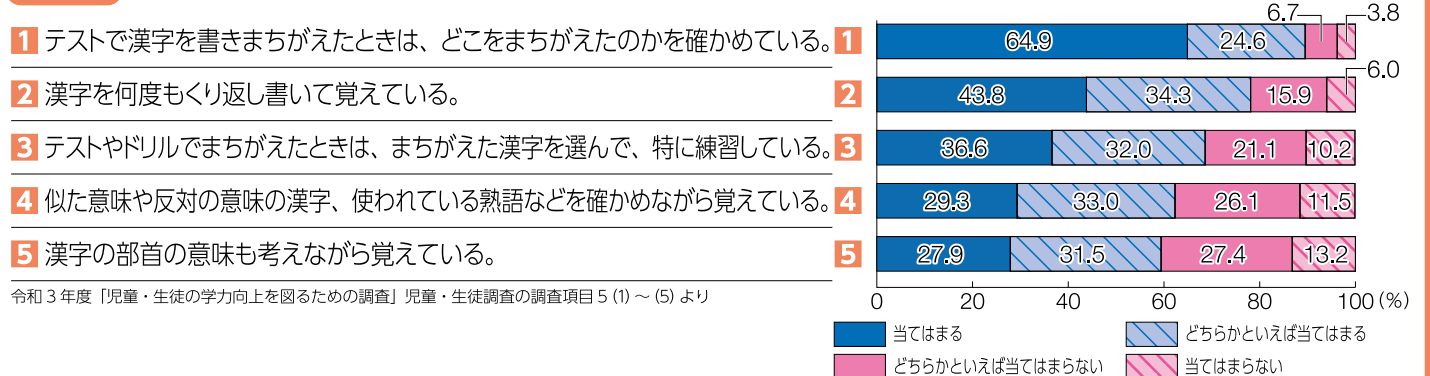


同じような間違いをしないように、自分でポイントをまとめたいよ。

これからは、意味を考えて漢字を書くようにすると間違えないね。



コラム 東京都の小学生は漢字の学習をどのように進めているのでしょうか。



それぞれの学習の進め方に肯定的に回答している児童に着目すると、1や2に比べると、3や4、5に取り組んでいる児童は少ない傾向がみられます。

中学年以降は、新たに学習する漢字が1年間に200字程度と多くなり、画数が多く抽象的な意味を表す漢字も増えます。そのため、1や2のように、字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、3のように、学習した漢字を確実に書けるようになるための工夫や、4や5のように、漢字の意味や部首など、漢字への理解を深めるための学習を行うことが大切になってきます。

漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるようにするためにも、1～5の学習の進め方をバランスよく身に付けることが重要です。